

洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～
令和2年12月4日(金)第25号

今週の四字熟語

百発百中 (ヒヤツパツヒヤクチュウ)

予定した内容のすべてが、当たること

☆期末考査 ラスト1日!! ☆

ここまでの手応えはどうでしょうか? 土日をはさんでラスト1日です。

最後まで粘りと頑張りで
取り組みましょう!!



洛東写真館



美術部の皆さんの作品がエントランスに彩りを与えてくれました!

!! 新型コロナウイルスについて !!

全国的には・・・

新型コロナウイルスの感染拡大が収まりません。第三波と呼ばれる状況が発生しています。「GoTo トラベル」や「GoTo イート」などで、緊急事態宣言時に控えていた都道府県境をまたいだ移動等が活発になったことがきっかけとなっていると言われています。政府は、感染防止対策を徹底したうえで、これらの事業の延長を発表しました。経済との両立を図るためにやむを得ないとしていますが、一方で大阪は今年15日まで、府民全員に「不要不急の外出を控えるように」と要請を出しました。医療体制が崩壊することを何としても防がないといけなからです。重症の新型コロナウイルス患者一人にかかる医療従事者の数は最低でも3人と言われ、多い場合は8人～10人、しかも24時間体制でということになります。病床が足りないだけでなく、「人」が足りなくなるわけです。当然のことですが、病院は「コロナ」の対応だけではありません。コロナの重症患者が増加することで、他の疾病患者の対応ができなくなるわけです。

一方 京都は・・・

もちろん京都も決して楽観はできないのですが・・・今日の京都新聞に「全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が加速している中、「なぜ京都の感染者数は少ないのか」という府民の声に応える記事がありましたので、抜粋を掲載します。

—以下令和2年12月4日(金)京都新聞 朝刊より—

『大勢の観光客が全国から訪れているにも関わらず、近隣の大阪府や兵庫県と比べても現時点で京都府は急激な感染増加に至っていない。対策に当たる自治体や医療関係者らに考えられる理由を聞いてみた。』

■「繁華街の規模小さい」

2日までの1週間合計で大阪府は2560人、兵庫県は845人の感染が確認されている。京都府は162人だった。人口千人当たりで換算すると大阪0・290人、兵庫0・155人、京都0・063人となり、現状では京都の感染は一定のところまで抑えられているとも言える。

京都府の幹部は理由の一つに繁華街の違いを挙げる。京都の繁華街は店舗の集中や規模が小さい」という。全国では繁華街などの会食で感染した後、同居する家族に広がっているケースが多いとされる。しかし、京都ではここ最近、繁華街を起点にした大規模な感染拡大は確認されていない。宿泊施設などでも同様だ。

紅葉シーズンで京都の観光地は休日になるとにぎわっており、感染予防に欠かせない3密の回避は難しく思える。ただ、観光客と地元住民が直接接触する機会はそれほど多くないと考えられる。また、府内の医療

関係者は「混み合う観光地は府民が避けているのではないかと推測する。

■「マスク・手洗い続けて」

感染者をキャッチするPCR検査の件数は十分なのか。京都府は11月25日～12月1日の1週間平均で1日当たり641人件。同時期の大阪府は4257件、兵庫県が1460件だった。人口の違いを加味して比較すると、京都府の検査数は感染拡大が著しい大阪府に比べて2分の1の割合だが、兵庫県とは同程度で必ずしも少なくはない。

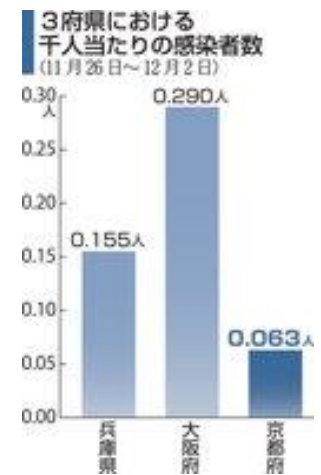
対策に当たっている人からは、保健所や医療従事者の奮闘を要因とする声もある。京都府内では10月22日～11月25日に4施設でクラスターが発生しているが、府の新型コロナ専門家会議議長を務める松井道宣・府医師会長は「保健所の積極的疫学調査で感染者の囲い込みができており、2次感染、3次感染が抑えられている」と強調する。

また府の担当者は、京都大や府立医科大などの感染症専門医らによるサポートチームの役割も重要とする。

感染者が確認された医療・福祉施設に派遣され、感染が広がらないようにきめ細やかな指導を行っている。

今後、感染者数がある一定数を超えれば、積極的疫学調査を担うマンパワーが足りなくなり、感染が爆発的に広がる恐れはある。京都市の担当者は急増する大阪について「感染者数が多くなって感染の連鎖を追いきれなくなり、悪循環に陥っているのでは」とみる。

松井会長は「感染が爆発して医療崩壊すれば、助かる命も助けられなくなる。平凡なことかもしれないが、マスクの着用や手洗いといった基本的な対策が有効であることは分かっている。積み重ねてきた今までの生活を続けてほしい」と府民に呼び掛けている。



—ここまで京都新聞の記事—

つまり、「繁華街の規模が小さい」「全国から観光客が来ているが、府民が接触を避けている」「医療従事者がきめ細やかな指導を行うなど奮闘している」などが、京都の感染拡大を一定収まっている要因だとしていますが、引き続き一人ひとりが感染防止対策をとり、「医療体制の悪循環」を生んではいけないということです。

また、感染した人たちに対して、心ない偏見や差別などが少なからず生じていると言います。正直、理解に苦しみます。もはや、いつ、誰が感染しても何の不思議のない状況です。感染された方々のデータによって、この病気の様々なことが判明し治療や予防に役立っています。そういった意味では感染された方々は貢献者とも言えます。皆さん、日常生活における感染予防を一層心がけるとともに身近に陽性になった人があっても、心ない言動は厳に慎むようにしましょう！

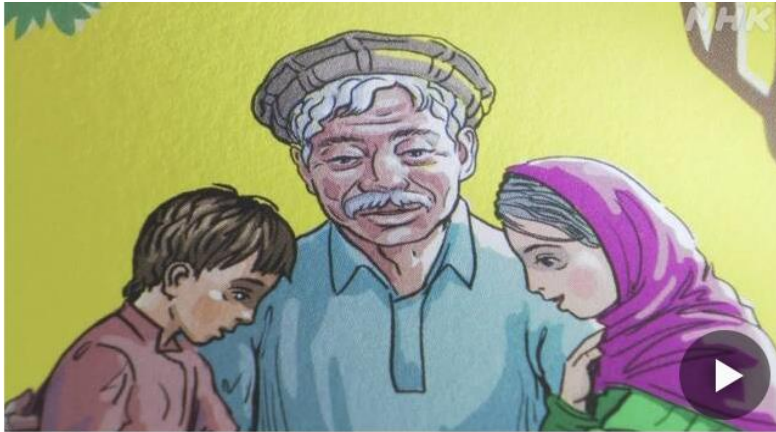
中村哲 さん(医師)暗殺から1年・・・

皆さんは、昨年12月4日、アフガン東部ジャララバード市内で武装勢力の銃撃を受け亡くなった「中村哲さん」を知っているだろうか。難民支援やハンセン病根絶を担い、1983年にアフガニスタンのミッション病院に派遣され中村哲医師は、診療を続けていく中で、十分な食料と清潔な飲料水があれば防げる病気が多いことが分かり、清潔な飲料水の確保に乗り出した。2000年にアフガニスタンのジャララバードに水源対策事務所を設け井戸掘り事業を展開し、枯れた井戸の修復を中心に約1600カ所の井戸掘りを行った。同時に飲料水だけでなくかんぱつにより枯れた灌漑水路の復旧や灌漑用井戸を手掛けた。



中村哲さんについて、或いは中村さん自著の書物はこれまで数多く出版されているが、本日、功績を伝える絵本の日本語版が発売となった。皆さんには、今すぐでなくても良いので、中村哲さんの本を是非一度は読んでほしい。

中村哲 さん 関連書物 紹介 (図書館在庫のものもあります)



アフガンで銃撃 中村哲さんの功績伝える絵本 日本語版が発売

NHK Webサイトより

